

恐竜へのわくわくする気持ちが
2012. 7. 20
姉妹館提



御船町恐竜博物館

平成10年に旧武道館を改築し開館。2年後の平成26年には場所を御船中学校前に移転し新館オープン予定。恐竜化石の発掘調査、資料の収集活動、情報発信と教育活動を行っています。

ふたつの博物館を結びつけた
携調印式



モンタナ州立大学附属ロッキー博物館

アメリカ合衆国のロッキー山脈中心部、モンタナ州ボーズマンにあり、ティラノサウルス・レックスやトリケラトプスなど数多くの恐竜の標本を収蔵している世界的にも有名な博物館。

今年2月中旬にロッキー博物館から届いた約1.2トンの岩塊。広さは畳1枚分くらいあります。この中に埋まっている約1億5000万年前の恐竜化石のクリーニング作業が恐竜博物館の展示室で進行中です。化石のクリーニング作業とは、化石のまわりの岩石を取り除く作業で、先端に針がついた工具などを使って慎重に進めなければならぬ細かい作業です。

現在、クリーニング中の化石は、モンタナ州で発掘されたもので、発掘現場から石こうにくるまれた状態でロッキー博物館に運び込まれ、長い間保管されていました。竜脚類という恐竜の首や頭部の骨が入っていると見られていて、クリーニング開始から5ヶ月かけてようやく化石の全体像が見えるようになってきました。クリーニング作業はガラス越しに見学することができます。恐竜の化石がどのようにして発掘され、クリーニングされるのかということを理解することができます。

約1億5000万年前の化石に出会える

ナ「恐竜：発見から展示まで」を開催しました。セミナーには、約270名が参加しました。翌26日から5日間、博物館のスタッフやボランティアに対して化石クリーニングなどの技術指導が行われ、本格的にクリーニング作業を開始しました。

7月20日、御船町恐竜博物館とモンタナ州立大学附属ロッキー博物館との姉妹館提携調印式が町カルチャーセンターで行われました。今後、学術研究や展示・普及教育活動において両館が交流を深め、双方の博物館の発展や国際交流に寄与していくことが約束されました。調印式には、町から山本孝二町長、増永信介館長（教育長）、宮崎靖社会教育課長、モンタナ州立大学からワデッド・クルザード学長、ロッキー博物館からシエルドン・マッカミー館長、パトリック・リージー古生物部長兼展示部長が出席。併せて町内外から約50名の来賓も参列しました。調印式では山本孝二町長とクルザード学長が両館の設置者の立場から挨拶。この姉妹館提携の意義についてメッセージが贈られた後、両館長がステージ中央に設けられた調印席で提携書にサインし、握手を交わしました。マッカミー館長は、今後の交流に向けたメッセージの中で「ロッキー博物館も以前はとも小さい博物館だったが、夢を持っていた。同じように小さくても大きな夢を持っている御船町恐竜博物館と姉妹館提携を結ぶことは大きな喜びである」と述べました。町が県の「夢チャレンジ事業」の採択を受けて、モンタナの恐竜化石のクリーニング作業に取り組み始めたことがきっかけで博物館の交流がスタート。2月25日にはロッキー博物館のリージー氏を招聘し、公開セミナー

姉妹館提携調印式

- 1 調印後、握手を交わす増永館長とマッカミー館長
- 2 調印式後、握手を交わす左からリージー氏、マッカミー館長、クルザード学長、山本町長、増永館長、宮崎課長
- 3 2月25日に町カルチャーセンターで行われた公開セミナーで講演するリージー氏
- 4 恐竜博物館展示室でクリーニング作業を行う杉田専門員

